



東京の会通信

No.312

2024年1月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

チャリティーコンサート開催 ～会場を包み込む美しい響き～

2023年11月23日に、小澤洋介さん（チェロ）、三戸素子さん（ヴァイオリン）、高田匡隆さん（ピアノ）による、東京の会主催のチャリティーコンサート「響」が開催されました。場所は「響」の由来でもある、音の響きが素晴らしい求道会館（東京都文京区）で、コロナ禍を除いてここ数年継続している会場です。昨年に引き続き、会館の意向で感染防止のため客席を減らし、1階の60席のみでの開催となりました。

チケットは販売せずに予約受付のみで当日集金的方式だったのですが、直前まで予約状況が芳しくなく、果たして会場を満席にできるのだろうかとかやきもぎしました。しかしラストスパートで東京の会メンバーの努力が実り、予定席数はほぼ予約達成。当日はお天気もよく11月にしては暖かい日で、開場時間になるとお客様が次々とおみえになり、予約分のチケット代金を回収することができてスタッフ一同ホッとしました。

本番は前半がピアノ独奏、チェロ&ピアノ、ヴァイオリン&ピアノの3曲で、どの曲も曲自体の素晴らしさと演奏のクオリティの高さにお客様が集中して聴いているのが感じられました。演奏者による曲の解説も好評でした。休憩をはさんで後半はシューベルトのピアノ三重奏曲で、会場内を包み込むような美しい響きの中で、力強く印象的なメロディーの第1楽章から始まり第4楽章までの40分近くがあつという間でした。アンコールのジ・エンターテイナーで気持ちは盛り上がり、お客様も大変満足されて盛況のうちに終了しました。（福永達子）

30年を経て 思い 更に深く強く

東大正門の銀杏の木の葉が黄金色に染まった11月23



日 私はピアノ三重奏コンサート「響」の会場である求道会館に。館内では懐かしい方たちとの再会に、開始前から既に心は喜びで満たされ

ました。

ステンドグラスから射し込む光の中で始まったコンサートは、ピアノの独奏から。一音目から美しい音のシャワーが降り注がれ、まるで全身が幾重にも重なる音に包まれた感覚になりました。求道会館の音響効果が演者の奏でる曲を更にグレードアップしてくれているようで、少し早いクリスマスプレゼントをいただきました。

そんな幸福感の中で想うのは、小澤さん、三戸さんと東京の会を繋いでくださった金井いづみさんのことでした。大判のストールを巻いた金井さんと語らいながら歩いた夜の新宿、病院でのひととき……ドナーを待つ身でありながら、いつも穏やかな佇まいの美しい方でした。

あれから30年。いまだドナーを待つ患者さんが多くいらっしゃる現実と今後ドナー減が予想される現実、ボランティアとして骨髄バンクを広く知っていただく活動に一層の力を注がねばと思った一夜となりました。

数年後の「響」コンサートに、高田さんの愛娘のマナカさんが加わっている姿を想像して、ひとりニンマリする私です。（村上順子）

心地よい音楽に酔いしれて

昨年に続き今年も厳かで音の響きがとても良い素晴らしい会場「求道会館」でチャリティーコンサートが開催されました。

人の心の中には常に窓の外を眺め、様々な世界を見てみたいという願望があります。恒例であったことができない時期が続き、自粛を強いられ、いろいろな思いを募らせる日々でした。コンサートの再開によって、目の前で生演奏の迫力に触れ、心地よい音楽に酔いしれ、まさに外の世界の素晴らしさを思い知らされた思いです。今年は音楽音痴の私も聞きなれた曲が流れ、さらに身近に感じられました。外に出ることが出来ず窓越しに世間を感じている方たちの気持ちが少しだけわかったような気がします。

コンサート終了後に演奏者の三戸さん、小澤さん、高田さんとの久々の懇親会にも参加させていただきました。そこでは心のこもった演奏の素晴らしさだけで

はなく、皆様のお人柄に触れることができ、心が温まりました。とても贅沢なひと時を過ごすことができました。

またコンサートの開催には多くの方々のご協力、東京の会の皆様のご尽力があればこそ、かなえられたことだと思います。本当にありがとうございました。

(名川一史)

結婚記念日に祝福をいただきました

恒例のチャリティーコンサート「響」は天候に恵まれ、気持ちのよい秋晴れで心も軽く会場の「求道会館」へ行きました。2時5分頃でまだ誰も来ず一番乗り、すぐ開場になって、また一番乗り、中央真ん中の一番前の席に座りました。

演奏者の皆様とは1mの距離もなく、かぶりつきで演奏を聴くことができました。最初に三戸素子さんからこのコンサートが始まった由来を聞き、1989年親友の金井いづみさんが発病された当時、まだ日本には骨髄バンクがなかったこと、それ以後に骨髄バンクが発足したこと、三戸さんたちが広報をしたい、チャリティーコンサートを始めようと思い立って開かれるようになり、30年の月日が経ったことなどを語ってくださいました。

ピアノの高田匡隆さん、チェロの小澤洋介さん、ヴァイオリンの三戸素子さん、みんな素敵で素晴らしく、砂かぶりの席で充分に楽しませて頂きました。特にクライスラーの「愛の喜び」は、その日来てくださった友人とたまたま私もですが、結婚記念日で、わたしたちを祝福してくださったみたいねと喜び合いました。とても嬉しかったです。

休憩後のシューベルト「ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 作品99」もなんと美しい曲でしょうか。私は特別料金を払わなければいけなかったのではないのでしょうか。楽しい嬉しい一日でした。演奏者の皆様、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

(中谷光子)

心を揺さぶられる旋律

コンサートの始まりは、高田匡隆さんのピアノ独奏で「フランク：前奏曲、フーガと変奏曲 作品18」でした。とても表情豊かに奏でるピアノが印象的で、音色一つ一つに魂がこもっている様な演奏でした。

2曲目は、「カサド：親愛な言葉」で、チェロの小澤洋介さんと、ピアノの高田さんの演奏でした。チェロは壮厳でござり感じがし、それがピアノと相重なって、キリッとした印象を受けました。

3曲目に、ヴァイオリンの三戸素子さんの登場です。オーストリアでのご友人の白血病発症の話や、チェ



ルノブイリでの原発事故の影響でそうなったことや、オーストリアの骨髄バンクは日本人を排除しているのかと思ったら型が合わないためだったなど、とても興味深かったです。演奏された曲はヴァイオリンとピアノによる「クライスラー：愛の喜び」。皆さん良くご存知の曲で、高田さんのお嬢さまが仰った通り、給食の時間でかかる様な楽しい曲で、正に「喜び」に満ちあふれていた感じでした。

休憩後は、「シューベルト：ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 作品99」で、第1楽章から第4楽章まであり、それぞれの楽章が主張し合う、1つの物語を味わった感じでした。

そして最後にアンコールの「ジ・エンターテイナー」が演奏されました。これも皆さん良くご存知の、楽しく自然と体が反応する曲でした。

全体を通じて、3人の指先から放たれる旋律の数々が、観ている我々の心を揺さぶり、揺り動かし、心地よい世界へと、いざなってくれた様でした。

素晴らしい演奏を、心より感謝致します。また来年もピアノ三重奏を聴けることを期待します。本当に、どうも有り難うございました。(笠原誠)

初めて聞く体験談

今年のコンサートは、時間の関係でドナーさんとレシipientさんのトークはありませんでしたが、代わりに三戸さんからお仲間の金井さんのお話を聞くことができました。チェルノブイリ原発との関係や当時のドナー探しの苦労話など、私も長くボランティア活動をしていますが、初めて伺いました。三戸さんが辛い体験をサラサラと伝えて下さり、却って胸を締め付けられました。長い年月を経ても癒されることのない患者家族の気持ちと重なる想いなののでしょうか！

曲の合間に作曲家の人生について解説してくださったりするので、クラシックに詳しくない私でもよくわかるようになっていきます。お客様も常連の方と新しい方がいて、これからも新しい人間関係を築いて、コンサートにお誘いしていきたいと思います。(竹崎恵子)

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和5年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	552,309	70,845	67,822
10-11月登録分	7,762	915	374
10-11月抹消数	4,149	562	—
実質登録増	3,613	353	—

患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	947,694人
ドナー登録抹消者数(累計)	395,385人
HLA適合報告ドナー数(累計)	377,690人
実質登録患者実数(現在)	1,632人(国内1,146人)
HLA適合患者数(累計)	53,979人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	28,131例(10-11月実施175例)

秋の代々木公園にゲレンデが出現 ～スノーバンクで献血並行登録会～

2023年11月11日、12日の土日に代々木公園に雪のゲレンデが出現、今年もスノーバンクが開催され、そこで献血とドナー登録会が行われました。

今年は11月に入ってから25℃を超える夏のような日が続いていたのに、この2日間は急に気温が下がり、雪とスノーボードにふさわしい寒い日になりました。朝早くから公園には献血バスが4台来て、その前には日赤職員によって手際よく次々とテントがいくつも並べられました。その中に、献血の受付からドナー登録の説明テーブル、問診のドクターの4つのブースへと動線を考えた会場が設営され、順番待ちの椅子がたくさん用意されました。

今年は2日間で献血は400名、ドナー登録は111名が目標。献血は同じ人が毎年でも協力することが出来ませんが、ドナー登録は新しい人に来てもらって登録してもらわないとなりません。続々とテントには献血者が来てくれますが、「ドナー登録の説明を聞きませんか？」と声をかける度に、「もう登録してます！」と返ってきて、これまで12回スノーバンクで登録会をやってきた成果ではありますが、同じイベントで毎年新規の登録者を得ることの難しさを実感しました。

それでも2日間合わせて79名の登録があり、献血は目標を大きく超えて439名の協力があって、スノーバンクの人を集める力は本当にすごい！と思いました。東京の会だけでは人手が足りず、毎年埼玉、千葉、神奈川の会からも説明員に参加してもらっていますが、今年は東京の会からの参加者が増え、登録会終了後の確認作業と一緒にやってくれる説明員が何人もいてくれるようになって、登録会取りまとめ役として、こんなに嬉しいことはありません。

参加の皆様、寒い中、お疲れ様でした！（松下倫子）

【雪祭】をより良いものに

荒井daze善正さんご縁を頂き、数年前からSNOWBANKさんの手がける【雪祭】にボランティアとして参加しています。私が骨髓バンクのドナー説明員になろうと思ったのもそのためです。雪祭に初めて説明員ボランティアとして関わったことで、二つの気付きがありました。

一つは日赤や骨髓バンクの協力です。「ドナー登録」という工程は、“献血を集めること”が第一義である

日赤さんからすると好ましくない」という話を聞いていました。でも雪祭では、それらのわだ



かまりを一切感じず、ドナー説明から献血への流れはスムーズでした。また骨髓バンクの職員さんから「献血並行ではなく、より簡易的な方法でドナー登録が出来るよう取り組んでいる」ということも伺いました。献血およびドナー登録に際して色々と進んでいることを実感しました。

もう一つは既登録者の多さとdazeさんの影響力です。雪祭はスノボや音楽フェスなどを嗜む若い世代に対して、カジュアルに献血やドナー登録を薦める意図があります。それも今年で12年目。企画に関わる多くの方々がリピーターで、既登録者数が多いです。また、“dazeさん自身、血液難病をドナー提供によって克服された方である”という話を知らない人にもお会いしました。今のままでは雪祭における、ドナー登録者数は減じていくだけだと感じました。

様々な温かい善意が寄り集まって作られているこの【雪祭】がより良いものになるよう、何がしかの施策を講じられたら良いと感じました。（宮本大志）

雪主Tシャツでスノーバンクを宣伝

今年のスノーバンクは、それまでの暖かさから一变し、雪祭という名前にふさわしいイベントになりました。全国協議会の普及啓発ブースでのお手伝いと、献血バスでのドナー登録説明を、時間ごとに分けて、東京、埼玉、千葉のメンバーで担当しました。

献血者にはもちろん骨髓バンクドナー登録のお声がけをした結果、新規登録者79名、既登録者106名でした。既に登録している方の多さに、長きにわたり継続してきた成果の表れを感じました。嬉しいけれど、もっと多くの方々に説明したいな……という気持ちになられた説明員も多かったのではないのでしょうか。

スノーバンクでは雪主という寄付の方法があります。私は今回、個人で雪主になり、可愛いイラストのTシャツ付きの寄付を選び、着用しての活動を計画し

東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月20日（土）、2月17日（土）午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

会場：こくみん共済coop東京会館
（旧：全労済東京会館）3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※3月定例会予定・3月16日（土）午後5時30分より

ました。当日は T シャツだけでは過ごせない寒さで、上着を脱ぐことができず残念でした。

が、後日、スポーツクラブやダンススタジオで着用していると、多くの方に声をかけられるのです。「可愛いデザインですね」「これチャリティ T シャツなの」「あっ、ブラッドドネーションで書いてある、献血ですか?」「スノーバンクって知ってる? めっちゃ楽しいイベントなの、来年行ってみて! 検索してみてね!」こんな感じで楽しい会話が続きます。当日の参加だけではなく、こんな形での貢献もできるんだと、新たな発見にワクワク嬉しくなってきました。

2024年11月9.10日、来年の開催が今から楽しみです。
(小石川知子)

献血に行列、説明席も埋まって驚き

2日目の登録説明員として参加しました。小雨がばらつき寒い中、代々木公園は熱気が溢れていました。ステージからのエネルギーあふれる演奏! ゲレンデを囲む大勢の合間から見え隠れするボーダーの滑走! 大写真になる映像とMCの迫力!

骨髄ドナー登録会では、血圧測定を学生推進連盟さんと担当しました。スタッフジャンパーを着ている方々も混ざっての行列で、血圧後の骨髄ドナー登録声かけでは、説明用の4席が埋まっていることが多く驚きました。既登録の方へ住所変更のお願いもスムーズにできて、普段の献血バス配置との違いを実感しました。

昼過ぎからは、全国協議会ブースを担当しました。スタンプラリーとしてミニタオルとレトルトカレーをお渡しして、お面や小物の販売、釣りくじ、ピンポン球くじに、若い家族連れがひっきりなしで賑わっていました。

嬉しかったことを挙げると、まずは、ゲレンデでけんけつちゃんが見事にボードを乗りこなしたのが見られたこと! 更に、映画「みんな生きている」主演の樋口大悟さんとお話できたこと! 大谷貴子さんが立ち寄ってくださったことも、埼玉の会の方々とお話しできたことも、とても貴重な機会でした。来年を楽しみに、これからも説明員の活動を続けていこうと思いました。
(園山千夏)

「みんな生きている」上映会トークショーに 小石川さんと中根さんが出演

2023年10月26日、映画「みんな生きている～二つ目の誕生日～」の上映会が大井町きゅりあん小ホールで開催されました。東京の会の仲間の泉孝之さんが会長を務める東京カレーライオンズクラブが主催し、無料で2回の映画上映が予定されました。合間の舞台上で、骨髄バンクのドナーから移植を受け元気になった主演の樋口大吾さん、荒井daze善正さん、司会進行の東京の会小石川知子さんの3人と、骨髄バンクで骨髄提供をした東京の会の中根悠貴さんがトークショーを繰り広げました。

移植を受けた3名からは、辛い闘病でもドナーが見

つかり生への希望が持てた感謝と、骨髄バンクを支援してきた皆さんへの感謝が述べられ、提供したドナーの中根さんからは家族との向き合い方を改めて深く考えたとの事が話されました。

ライオンズクラブの主催による無料映画鑑賞会なので、ライオンズの方々をはじめ日赤や行政の方、映画製作に関わった方など多くの方が集まっていました。この映画は特に提供するドナー側やその家族の心境を丁寧に描いた作品です。今後もこのような上映会が全国でおこなわれ、骨髄バンクを正しく知る機会が増えることを期待します。
(若木換)

「しながわ宿場まつり」の収益金から 寄付をいただきました!

2023年12月6日、品川プリンスさくらタワー内で開催された、東京港南マリーナロータリークラブの例会にご招待いただきました。9月17日に4年振りに開催された「しながわ宿場まつり」では、ロータリークラブのメンバーの皆さんと協働して品物を売りさばき、少し売れ残った分も最後はロータリークラブの皆さんが協力してくれて完売となりました。その貴重な収益金、122,803円を東京の会に寄付いただきました。改めて感謝いたします。

10年前、東京マリーナロータリークラブ(当時)からのご厚志を原資に、全国協議会の患者支援活動「こうのとりのマリーナ基金」が創設されました。組織が合併されて東京港南マリーナロータリークラブとなって

からも毎年寄付を継続していただき、今年も「こうのとりのマリーナ基金」と「佐藤さち子基金」にチャリティーゴルフから寄付をいただけるということです。

東京港南マリーナロータリークラブの皆さんの継続した温かいご支援に感謝します。今後とも骨髄バンクの普及にご協力をお願いいたします。来年もチャリティーバザーでお会いしましょう。
(若木換)



第2の人生をいただいて

森 八重子

体調の変化に気付いたのは、2016年の春でした。仕事の帰り、どうしようもないくらい足が重く感じるようになって、さらに微熱、皮下出血やひどい寝汗などの症状も出て、ネットで血液の病気の可能性があるとのことを知りました。恐る恐る近所のクリニックで診察を受けると、夜に電話がかかり、直ぐに血液内科のある病院に行くように指示されました。

行った病院では移植治療は行っていないでしたが、先の事まで考える余裕も、もちろん知識もなくそのまま入院。翌日の骨髄穿刺で急性骨髄性白血病と診断されました。一人でよくよしていた入院までの数日間が、精神的には一番苦しかったように思います。はっきり病名を伝えられた時は、却ってほっとしたことを覚えています。

抗がん剤による治療が始まって、直ぐに食欲減退、2週間後には脱毛と予測していた変化が起きました。「2週間後には脱毛が始まるけれど、必ずまた生えてくるから」という看護師さんの説明がまさにピッタリの日でしたし、性格もあるのか、私自身はあまりショックを感じずに済みました。

1回目の寛解導入療法が終わっても、白血病細胞は明らかに残っている状態で、直ぐに増殖してきました。一応姉妹のHLAを調べてもらいましたが、4姉妹でも合致しません。私の年齢が考慮されたためなのか、最初の治療が芳しくなかったためなのか、担当医からはホスピス的な治療（この場合は余命半年）も提案されました。が、都内の病院でセカンドオピニオンを受けると、ハプロ移植か少なくとも臍帯血移植ができるとの説明でした。移植治療の不安も大きかったですが、母より先に死ねないという思いも強くあり、寛解導入療法を更に2回受けて、その後転院して移植を受けることに決めました。

転院先で詳しい検査を受け、結局は臍帯血ミニ移植を受けました。移植治療を受けるか否かを悩んだ時間が無駄だったと思えるくらい、実際には自分の人生や家族のことを考えた貴重な時間ではあったのですが、とても順調に回復して退院できました。

退院して2年近くたった頃、県のたよりのド

ナー登録説明員養成講座の案内が目にとまりました。臍帯血を提供して下さった赤ちゃんのご両親に、何か恩返しできないかと思っていましたので、これこそやりたい活動だと直

ぐに申し込み受講、同時に「神奈川骨髄移植を考える会」に入会しました。今は月に数回、献血ルームや献血バスで活動をさせて頂いています。その中で家族や友人が血液の病気になったので駆けつけました、と話される方にお会いしたこともあります。回復した私をご覧になって、少しでも希望を持って下さったのではないかと、活動が直接的に嬉しく感じられた出来事でした。

また一昨年「神奈川骨髄移植を考える会」の有志で、医療用ケア帽子を製作販売する「コットンキャップ」の活動が始まりました。多くのボランティアのご協力を得て製作したコットンキャップを、県立がんセンターなど3ヶ所の病院の売店に置かせて頂き、オンライン販売も行っています。ご購入くださる数が予想外に多く、必要とされている活動だと有意義に感じながら、私もそのスタッフとして発送や納品、生地購入などに関わっています。

ドナー登録者を増やしたい、骨髄移植などについて正しい知識や理解を広めたい、コットンキャップで病氣療養中の方を応援したいという同じ思いで繋がっている方々との活動は、とても居心地良く楽しい日々です。しかしよく考えてみると、活動は人のためにというよりは、いただいた第2の人生を充実させてくれているものかも知れません。これからも体力を維持して活動を続けていけたらと願っています。



心のこもったご寄付ありがとうございました。(2023.10.16～12.15)

池田あゆみさん 12,000円／小柴良介さん 2,000円／小林由佳さん 7,000円／小松美穂さん 2,000円
柴山泉さん 3,000円／鈴木孝宏さん 7,000円／竹崎恵子さん 3,000円／手塚春枝さん 2,000円
中川里枝子さん 2,000円／匿名希望 20,000円

〈募金箱〉松崎内科クリニック 松崎道男様 15,532円

2023コンサート響 求道会館当日寄付 49,570円

東京港南マリーナロータリークラブしながわ宿場まつり収益金 122,803円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

編集者 雑記



▼令和六年を迎え新年のお祝いを申し上げます。今年のお正月は全国的に昨年とは様変わりになっているのではないのでしょうか。昨年は年初からコロナ感染者数が増加に転じ、三が日開けの4日から10日までの7日間で117万人以上の方が新規感染者になられました。幸い大きなピークはこの時期が概ね最後で、政府は5月8日にそれまでの感染症としての区分を2類から5類に移行させ、政府としての外出規制などは行わないことになりました。

▼最近では、電車に乗っても街中でもマスクを付けている方の数はずいぶん減ってきているように見えます。もっとも、まだ、油断は出来ないようで、この雑記を書いている時点での報道でも1週間に新型コロナに感染された人数は、前の週から1851人増えて1万1499人となったようです(昨年11月26日時点での全国およそ5000の医療機関からの報告)。今年こそは本格的コロナ明け元年として活気ある生活が展開していくことを期待し、東京の会もそれに応じた活動ができればと願っています。

▼それにしてもスペイン風邪以来の世界的なパンデミックの到来は、今後に何をもちたしていくのでしょ

うか。スペイン風邪は第一次大戦終結の大きな要因になったと言われます。しかし、現代のウクライナ、そしてガザの悲劇は簡単に終結しそうにありません。

▼今回のコロナでは日本の総人口の延べ26%に及ぶ人が感染しました。相次ぐ変異株の出現による波動的な感染者数の増減が繰り返され、経済社会活動も大きな制約や変化を経験しました。3密回避の要請、在宅勤務の推奨、それに応じたテレワークの普及、旅行や集団行動の自粛によるオリンピックや甲子園大会等等ビッグイベントの延期と中止、国際的にもウイルスの発生源と見られる中国と国際社会の対立の深化等々。

▼何よりも医療現場の深刻な患者収容能力の逼迫、それによる医療体制の脆弱性への将来不安、そして新たに生じた様々な分野での人手不足、とりわけバスやタクシーさらには運送業における深刻な人手不足、そして多くのコロナ後遺症に苦しむ人の出現等。長期的に影響されそうなのは人口減少が一段と進んだことで、減少率はこれまでの二倍を上回るまでになりました(2012年の0.19%がそれまでの最大だったのが2020年0.32%、21年0.51%、22年0.44%)。

▼こうした中で骨髄バンクへのドナー登録数が昨年末にも最高値を記録したことは特筆して良い事だと思います。その背後にあってコロナ禍のこの3年間も毎月のように登録会や様々な機会を捉えてドナー登録の呼びかけを続けてきた東京の会の仲間々に改めて深く敬意を表します。(〇)

3月会報発送

「おりおり」のお知らせ

日時：2024年3月3日(日)14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※2024年5月「おりおり」予定 2024年5月5日(日)14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

郵便振替口座番号

00100-1-555195

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900)／〇一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 骨髄バンクを支援する東京の会